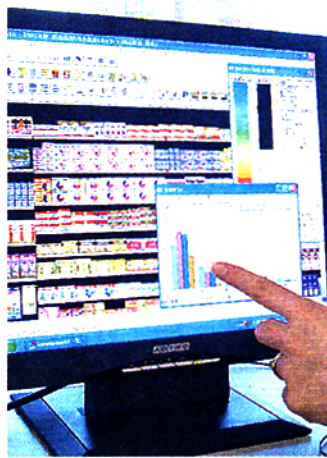


日用品+医薬品+食品

棚割り支援DB構築

あらたなど4社 情報を一括提供

日用品卸のあらた、医薬品卸アルフレックスホールディングス子会社のシーエス薬品(名古屋)、情報システム販売の日本総合システム(NSS、東京・新宿、伊藤俊秀社長)など四社は五日から、複数の商品情報を得られる棚割り支援システムの提供を始める。これまで雑貨や医薬品、食品など商品群ごとに情報を入手する必要があったが、一元的に入手できるようになる。棚割りにかかる時間や人手の削減につなげる。五年で契約社数二百五十、二億円の売り上げを目指す。



卸が提供する複数の商品情報を入手し棚割りに活用できる

新しく提供するのは「ストマネPLUS(プラス)」。あらたは日用品、シーエス薬品は医薬品や健康食品、サイバリンクス(和歌山市)が食品や酒類の棚割り用の商品情報をNSSに渡す。NSSはメーカーや

卸、小売りにデータベースを提供する。一度に入手できる商品群は「めん」や「消化器官用薬」「シヤンプー」など約七十を留意した。

「」に付加する形で提供される。ストアマネージャは通常、保守・点検料込みで初期費用約四十万円がかかる。

ストマネプラスを利用する場合は入手したい商品群ごとに別途、年間契約する必要がある。「めん」の場合、一万七千品目にあふカップめんや生めん、パスタなど商品情報が年間二十万円で入手できる。

ストアマネージャは、味の素や資生堂などのメーカーや食品卸大手の日本アクセスなど約九百社が利用している。これまで、メーカーや卸が膨大な商品情報を自身で集める必要があった。ストマネプラスは、まずメーカー・卸を中心に売り込み、順次スーパーなど小売りへも拡販する方針だ。

新サービスは、NSSの棚割り支援の基幹サービス「ストアマネージャ」